

巻頭言

着任のご挨拶

おがた ひろあき
副院長 緒方 浩顕



4月1日付で副院長を拝命しました。教育・研修を主に担当します。北部病院は医系総合大学である昭和大学の附属病院の1つであり、他の附属病院と協同して医学部生のみならず、歯学部、薬学部や保健医療学部（看護学、理学療法学、作業療法学）の学生の教育を担っています。また、優れた医療人の育成には生涯に渡る知識、技術の習得が必須であり、卒後教育にも注力しています。

毎年4月になりますと、学生、新研修医や新人職員が院内を行き交い、活気に溢れる光景が見られますが、現在のコロナ禍では、学生実習や新人オリエンテーションは感染対策に最大限の配慮した上での実施となっています。将来に渡って高度で安全な医療を継続して提供するためには、学生や若い医療者への教育を継続的に実施することが不可欠です。そして、医療者教育は医療者の努力だけでは不十分であり、患者さんやその親族の方々のご協力が極めて重要で

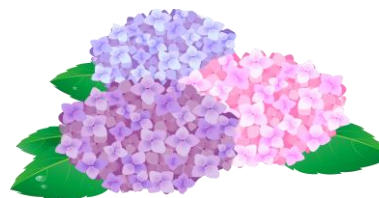
す。当院で教育を受け、研鑽を積んだ彼らがこの地域のみならず、日本そして世界の医療に貢献できるよう人材の育成に取り組んで参りますので、引き続きご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

私はこの『病院だより』の編集も担当しております。引き続きご愛読をお願いするとともに、内容等についてご意見、ご要望等を是非お寄せ下さい。

脳神経外科 特任教授 寺田 友昭

てらだ ともあき

4月1日より特任教授として藤が丘病院脳神経外科から異動してきました寺田と申します。出身は和歌山市で、昭和大学藤が丘病院に赴任してから横浜での生活が7年目に入りました。専門は脳神経外科の中でも脳神経血管内治療です。この分野に関しては、大型脳動脈瘤に対するフローダイバーター、WEB（Woven EndoBridge device）留置、脳動静脈奇形に対する非接着性液体塞栓物質 ONYX による塞栓術など、国内でできるすべての脳神経血管内治療に高いレベルで対応可能です。同郷の脳神経外科の山家先生が北部病院ですすでにある程度の患者さんを診ていますが、今後はブルーライン沿線、田園都市線あざみ野から二子玉川までのエリアの患者さんも診たいと思っています。趣味は魚釣り（専門は、アオリイカ釣り）で、日本脳神経血管内治療学会釣りクラブの会長（国際会員3名を含む）を務めていますが、コロナ蔓延で海外遠征ができずストレスが溜まっています。気候も良くなってきたのでしばらくは近場で楽しみたいと思っています。釣り情報集めています。御存知の方は教えてください。



＜ホワイトシーバス 100cm、
2019年ロサンデルスにて＞

薬剤部長

わたなべ とおる
渡邊 徹



2021年4月1日付で昭和大学横浜市北部病院 薬剤部長を拝命致しました渡邊徹（わたなべとおる）と申します。これまでに昭和大学病院、江東豊洲病院、藤が丘病院などの附属病院勤務を経験してまいりました。北部病院はコロナ患者さんの積極的な受け入れ、クルーズ船への対応など地域に対する貢献への意志が強いと感じていました。また、医療安全への取り組みについても患者目線にたった考え方に基づき医療安全管理を進め、臨床研修や実習についても医師・医学部生のみだけでなく臨床研修薬剤師や薬学生などを始めとしたメディカルスタッフにとっても充実した教育環境が整っていると感じております。

私自身も患者さんに最善の薬物治療を実施するために、昭和大学の掲げるチーム医療の一員として、さらなる薬物治療の質向上と安全な医薬品使用の向上に繋がるよう、スタッフ育成に努めていきたいと思っております。

皆様のご期待に少しでも応えられるよう日々邁進していきたいと思っております。ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

臨床病理検査室

技師長

かがやま ともえ
加賀山 朋枝



4月1日に江東豊洲病院から異動して参りました。また、技師長を拝命し身の引き締まる思いでおります。

私は平成5年（1993年）に昭和大学病院に入職し、血清検査を担当しました。その後は生化学や細菌、採血、超音波と幅広く検査業務を経験させていただきました。そして令和元年（2019年）に江東豊洲病院へ異動となり現在に至ります。

当検査室は、昭和大学では初となるISO15189（臨床検査室の品質と能力に関する要求事項を定めた国際規格）の受審を目標に、スタッフ一丸となり取り組んでおります。

また、前任者のポリシーである「チーム医療の実践」を目指すために、病院の一員として診療科ならびに患者さんのご要望に応えられるよう努めてまいります。

私自身、経験さらに力不足ではありますが、責務を果たすよう尽力してまいります。皆さまのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

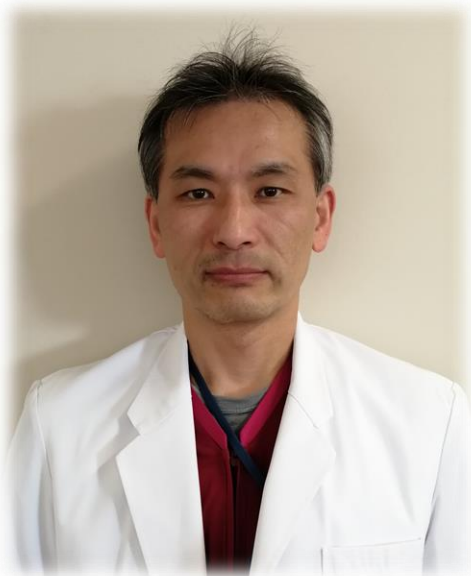


リハビリテーション室 係長

すずき さだおき
鈴木 貞興



本年4月1日よりリハビリテーション室責任者（係長）となりました、理学療法士の鈴木貞興と申します。平成3年に藤が丘リハビリテーション病院へ入職し、以降、江東豊洲病院、再度、藤が丘リハビリテーション病院へ異動し、そして昨年3月より北部病院で勤務しています。これまでに急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーションを経験して参りました。身につけたリハビリテーション技術を患者さんへ提供できればと思います。当院リハビリテーション室在籍のリハビリテーション科医師1名、理学療法士12名、作業療法士7名、言語聴覚療法士1名、計21名のスタッフで、患者さんの対応をしています。患者さんが抱えている、起居移動動作、日常生活動作、摂食嚥下機能、コミュニケーションなどに関連する諸問題へ対応いたします。これまで以上に、急性期リハビリテーションを充実していきます。各診療科からの処方をお待ちしております。



地域医療連携室 室長

いけじり けいこ
池尻 恵子



みなさま、はじめまして。本年4月1日に地域医療連携室長として着任いたしました池尻恵子と申します。

私たち地域医療連携室では、患者さんの身近にある診療所などの「かかりつけ医」と、「横浜市の地域中核病院」として高度な医療設備や専門性をもつ北部病院が、役割分担をしつつ、連携しながら、患者さんの症状に応じた適切な医療を提供するために、様々な業務を行っています。これまでも、地域の医療機関や地域団体、住民、行政機関など、それぞれの分野で地域を支えていただいている皆様のご協力をいただいてまいりました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

北部病院と地域との連携の窓口となり、皆様が安心して当院を受診していただけるように、また地域の医療機関等の皆様との信頼関係を一層強くしていけるように、精一杯努めてまいりますので、これからも地域医療連携室にご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



【医学講座コーナー】

食中毒 ～バイキンにも三分（さんぶ）の理？

（臨床病理診断科 講師 江原佳史、教授 木村 聡）

梅雨時は食中毒への警戒が必要です。私達は食中毒の原因となる細菌やウイルスを特定するプロですが、目に見えない微生物が集団になると人間を困らせるのは皆さんも御存知の通りです。ここでは視点を変えて病原体から見た食中毒の原因と対策を考えてみましょう。

細菌による食中毒は、多数の菌が体内に侵入して起こる「感染型」と、菌が生産する毒素で体がやられる「毒素型」に分けられます。表を御覧ください。

細菌による食中毒の分類

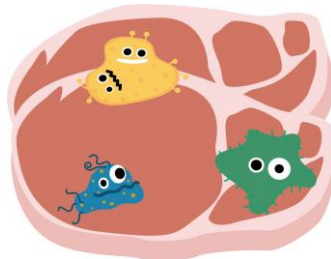
タイプ	菌の種類	食あたりが起こる原因	発症までの時間
感染型	サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、コレラ菌、大腸菌、エルシニア菌、リステリア菌	細菌がたくさん体内に入るため	数時間～1週間 （菌により異なる）
毒素型	黄色ブドウ球菌、大腸菌（O157）、セレウス菌、ボツリヌス菌	細菌が毒素を作るため	1～5時間

食中毒の細菌は、なぜ「毒」まで作って人間を倒そうとするのでしょうか。

食中毒「菌の言い分」

「盗人にも三分の理」という言葉がありますが、菌にも言い分があるのです。「ナマの牛肉」で感染する病原性大腸菌の一種 O157 は、実は牛の腸管内に常在し消化を助ける細菌です。大量の草を食べる牛の腸内と、干し草など決して食べない人間では腸内環境が著しく異なります。牛を屠殺し食肉加工するときに牛糞のしぶきが飛んだり、草原に落ちた便が水に流され、生野菜に付いたりすると、牛の大腸菌がヒトの腸内に入り、菌たちは「ここは私の居場所じゃない、出してくれ～！」と騒ぎ始めるのです。その時に作り出すのが毒素です。人間に下痢や嘔吐を起こさせ、体外への脱出を図るわけです。毒がたくさん作られると、人間を弱らせ、死に至らしめることすらあります。

同じように、鳥の腸内にはカンピロバクターという細菌がいます。よく洗っていない鶏肉を生で食べると、この菌がヒトの腸内に入り「出してくれ～」と胃腸炎を起こしますが、それだけでは済まない怖いお話があります。菌をやっつける目的でヒトが作り出す蛋白質「抗体（こうたい）」が、菌だけでなくヒトの神経も傷つけ、「ギランバレー症候群」という手足が麻痺したり呼吸が止まったりする病気を引き起こすことがあるのです。



なぜ二枚貝でノロウイルスに？

冬に流行しやすいのは、ノロウイルス、サポウイルスなどのウイルスによる食中毒です。牡蠣（カキ）などの二枚貝に多いのですが、なぜ牡蠣なのかと言いますと、二枚貝は水をろ過して生きるため、ウイルスも体内に貯め込んでしまうこと、牡蠣は生で食べるのが美味（！）なので加熱殺菌されずにヒトに食べられることが原因と言われています。困ったことに、ノロウイルスは症状がないヒトでもウイルスを媒介し得るため、ご本人に症状が無い場合でも、その人が作ったお弁当やお造りを食べた人が下痢や嘔吐を起こすことがあります。対策は食材に十分な加熱をすることです！

ノロウイルスの感染症状は嘔吐と腹部の不快感、下痢です。患者さんの吐物や糞便には多くのウイルスが含まれており、エアロゾルとなって空中を漂います。消毒剤の定番、アルコールでも効果は不十分で、吐物処理の際は次亜塩素酸（ブリーチ、1000 倍希釈）が推奨されます。病院では手袋、ゴーグル、ビニールエプロンと使い捨ての帽子を装着して処理に当たっています。

食中毒予防の三原則

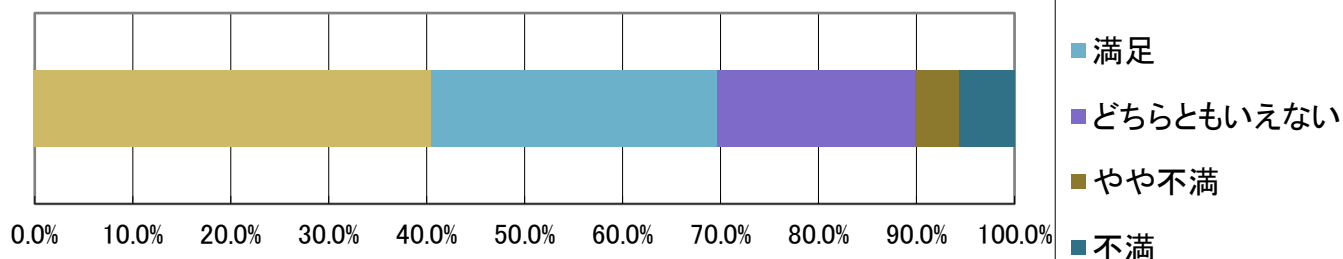
食中毒の予防には「付けず（よく洗い、調理場でナマモノは分ける）」、「増やさず（低温で保存し、すぐ食べる）」「やっつける（充分加熱する）」の3原則が有効です。きちんとした施設で販売される食材は安全だと思いますが、体調に不安がある方は、上記3原則をぜひお守りください。

【お知らせ】 患者満足度調査を実施しました

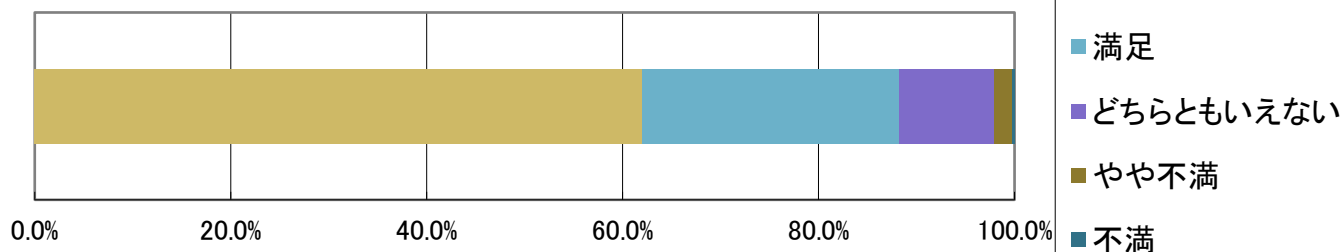
外来および入院患者さんを対象に患者満足度調査を実施しました。外来患者さん 91 名、入院患者さん 479 名にご協力いただきました。ご回答いただいた皆さま、誠にありがとうございました。集計結果の詳細は、中央棟 1 階 130 番放射線科受付の横にある掲示板に掲載していますので、ぜひご覧ください。

<患者満足度調査 結果の一部>

【外来】今回の受診の満足度はいかがでしたか



【入院】入院中に受けた医療サービスの満足度はいかがでしたか



【お知らせ】
市民公開講座を開催します

春期市民公開講座 暮らしと健康【がん】

開催日時：

5月29日（土）13時30分～

開催方法：

オンライン開催（LIVE 配信）

**参加費
無料**

第1部 13：30～

「当院における新型コロナウイルス感染症対策とがん診療について」

感染管理室 室長 鈴木浩介 助教



第2部 14：30～

「コロナ禍でのがん治療で

患者さんに知っておいていただきたいこと」

総合サポートセンター がん看護専門看護師

脇谷美由紀 係長



- 予約は不要です
- どなたでも参加いただけます
- 当日の詳細は近日当院ホームページに掲載いたします

【お問い合わせ】

管理課 企画庶務係 TEL：045-949-7000（代表）

患者さんからのご意見・ご要望

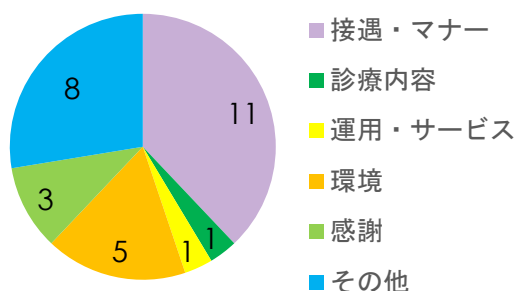
日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

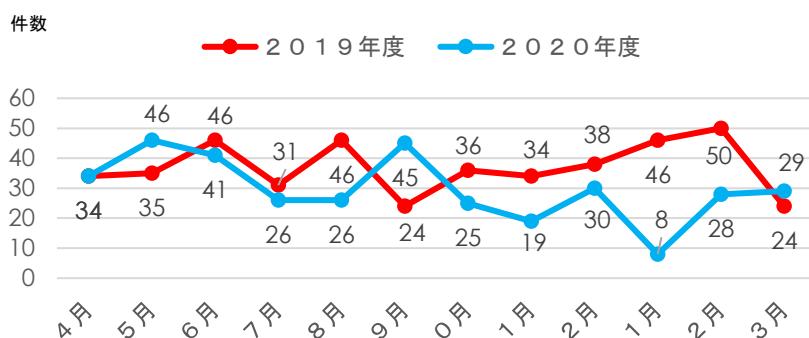
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
爪切りを貸してほしいです。	ご意見ありがとうございます。 当院では、衛生上の観点から爪切りの貸出はしていません。 お手数ですが、爪切りはご自身でご用意くださいますよう、お願いいたします。 (回答部署：管理課)
消毒液の設置数が少ないので増やして欲しいです。 2階は西棟まで行かないとありません。 各受付窓口にも設置してくれると助かります。	ご意見ありがとうございます。 現在、中央棟には1階正面玄関前、地下1階時間外受付前に手指消毒液を設置しております。 今後、設置場所を増やせるよう検討してまいります。 (回答部署：管理課)

2021年3月
ご意見・ご要望の総計29件



2019年度・2020年度
ご意見・ご要望の推移



【お知らせ】 病院ホームページをリニューアルしました

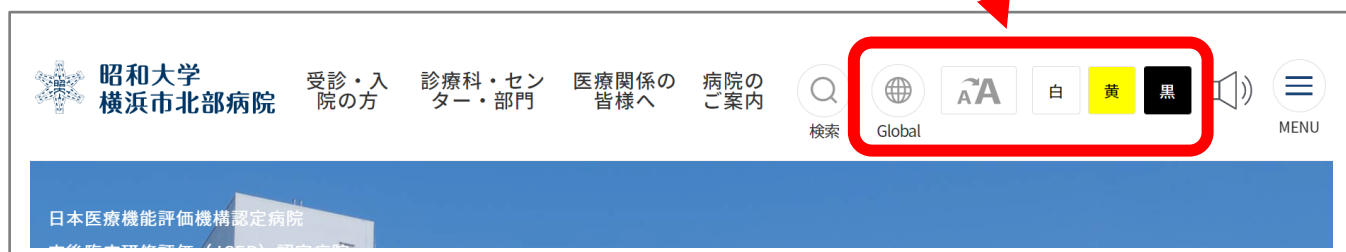
4月1日より当院のホームページが新しくなりました。

- 英語、中国語（簡体字・繁体字）のホームページを新設しました。
- 視力が低い方にもご覧いただきやすいように、文字サイズを大きくできるようになりました。（スマートフォン非対応）
- 色覚に障害がある方にもご覧いただきやすいように、背景色（白色・黄色・黒色）を選択できるようになりました。（スマートフォン非対応）



＜上記QRコードより新ホームページをご覧ください＞

その他にもページを大幅にリニューアルしています！ぜひ一度ご覧ください！



編集後記

新緑が日に鮮やかに映る季節となりました。

皆さんは、5月が近づくと「今年の母の日はいつだろう？」と考えることはありませんか。毎年、母の日は5月の第2日曜日で、今年の母の日は5月9日(日)になります。母の日の起源には諸説ありますが、よく知られているのは「100年ほど前のアメリカ・ウェストヴァージニア州で、アンナ・ジャービスという女性が亡き母を追悼するため、1908年5月10日にフィラデルフィアの教会で赤いカーネーションを配ったのが始まり」という話です。この風習は1910年、ウェストヴァージニア州知事が5月第2日曜日を母の日にすると宣言し、やがてアメリカ全土に広まっていき、1914年に「母の日」と制定されました。日本で初めて母の日のイベントが開かれたのは明治末期頃と言われています。

日頃は忙しく、話をする機会が少ない方も、この機会に大切なお母さんへの感謝の気持ちを伝えてみてはいかがでしょうか。

（放射線技術部 齋藤 徹）



北部病院だより 第155号
2021年5月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）
発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』をご覧ください。